

# 2 カリキュラム改訂について

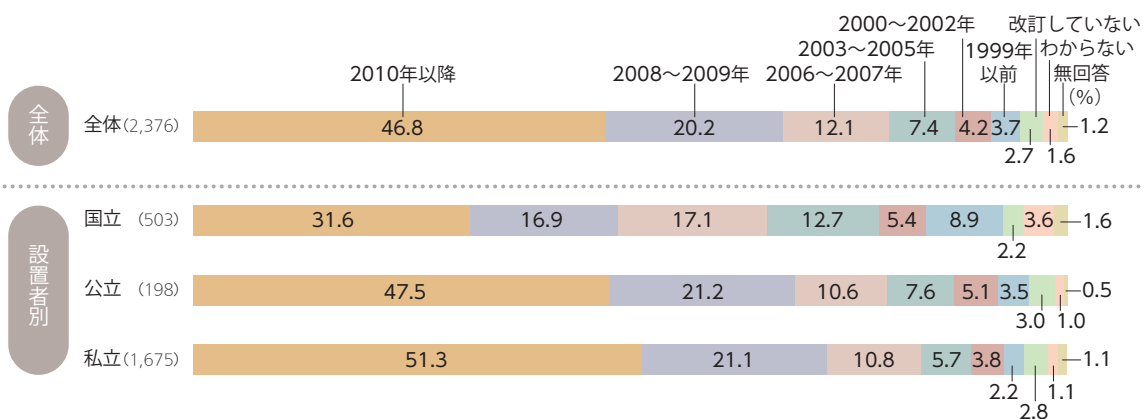
## 1 カリキュラム改訂の時期・期間

2010年以降の改訂が約半数。要した期間は1年～2年未満が4割。

この章では、直近の比較的大きなカリキュラムの改訂またはカリキュラムの新規策定についてたずねた結果を示す。まず、改訂の時期については、「2010年以降」が、46.8%と約半数であった。これを設置者別にみると、私立51.3%、公立47.5%に対し、国立は31.6%であり、国立は「2006～2007年」「2003～2005年」が相対的に多くなっている(図11)。次に、カリキュラム改訂に要した期間については(図12)、「1年～2年未満」「1年未満」「(半年未満)+(半年～1年未満)」がそれぞれ4割前後である。また、学科新設等に伴う新規策定の場合には「2年以上」も2割弱となっている。

**Q** 直近の(比較的大きな)カリキュラム改訂(新規策定含む)はいつですか。(○は1つ)

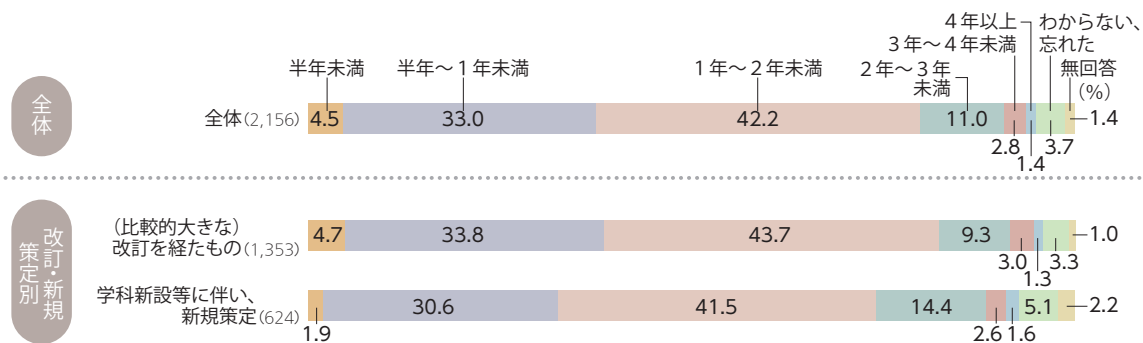
図11 カリキュラム改訂の時期(全体・設置者別)



注) 調査票では、「カリキュラム改訂とは、学部・学科全体に影響を及ぼすような大きな改訂であり、毎年実施している教科名や担当教員の変更等の細かなカリキュラム改訂は除外してお考えください」としている。

**Q** カリキュラム改訂(新規策定含む)にはどれくらいの時間を要しましたか。(○は1つ)

図12 カリキュラム改訂までの期間(全体・改訂/新規策定別)



注) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

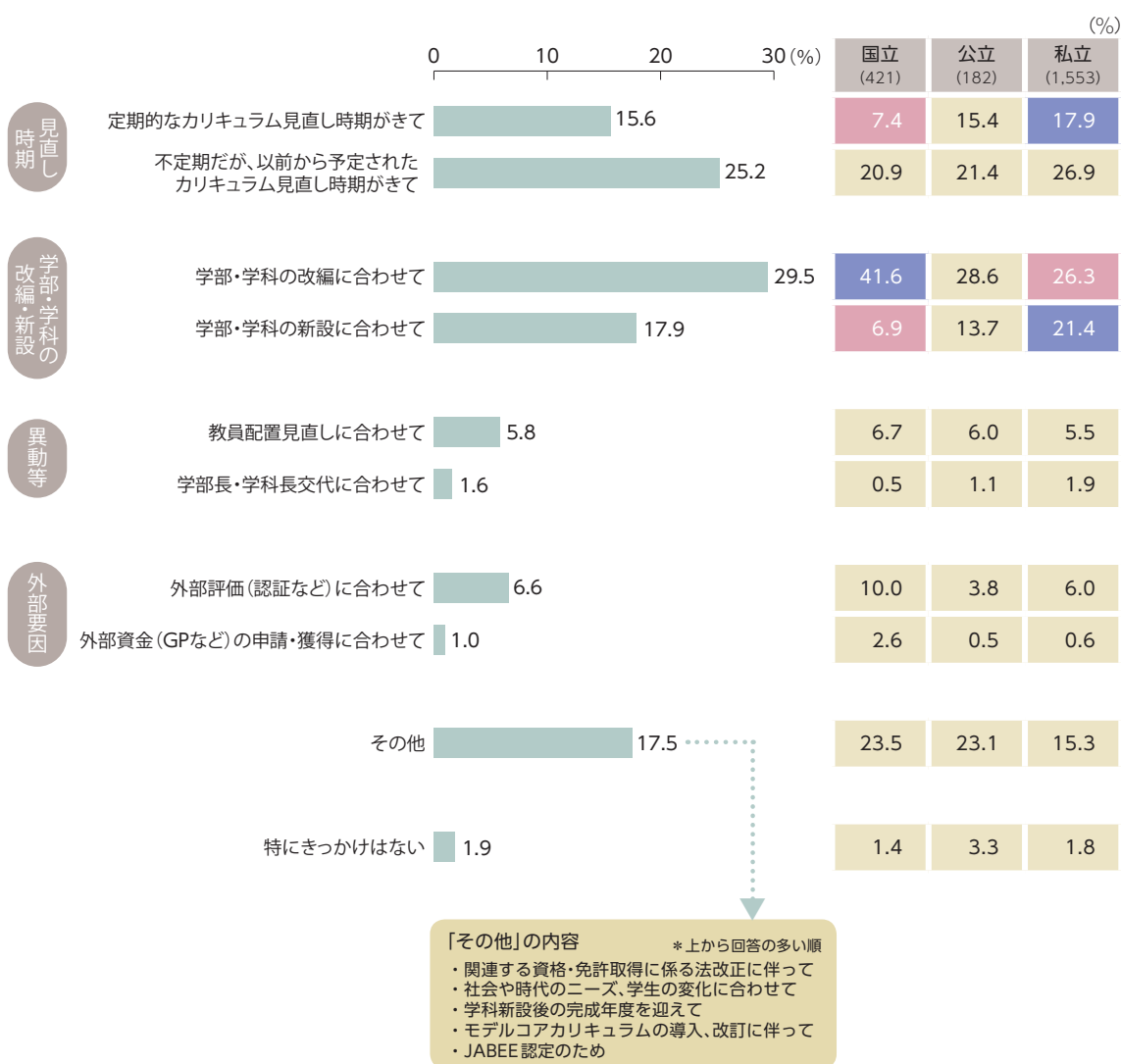
## 2 カリキュラム改訂のきっかけ

### 「学部・学科の改編に合わせて」が最も多い

カリキュラム改訂のきっかけは、「学部・学科の改編に合わせて」(29.5%)が最も多く、設置者別にみると、国立では4割に及ぶ。一方、私立で多いのは、「不定期だが、以前から予定されたカリキュラム見直し時期がきて」(26.9%)、「学部・学科の改編に合わせて」(26.3%)で、それぞれ4分の1程度である。加えて、「学部・学科の新設に合わせて」(21.4%)も2割を超え、国公立よりも多くなっている。

**Q** カリキュラム改訂(新規策定含む)のきっかけは何ですか。きっかけとなったものを、すべてお答えください。(○はいくつでも)

図13 カリキュラム改訂のきっかけ(全体・設置者別)



注1) 複数回答。 注2) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

注3) 設置者別の表の網掛けは、設置者間で10ポイント以上の差があるもので、最も高いものを■、最も低いものを■で示している。

### 3 カリキュラム改訂の体制

#### 改訂は教務担当教員が主導、学部・学科の権限で決定

カリキュラム改訂で主導的な役割を果たしているのは、「教務担当教員(カリキュラム担当)」が37.6%で最も多く、国・公・私立のどの設置形態においても共通している。私立では次いで「学科長」が24.9%と多いが、国立では学部長が多くなっている(図14)。

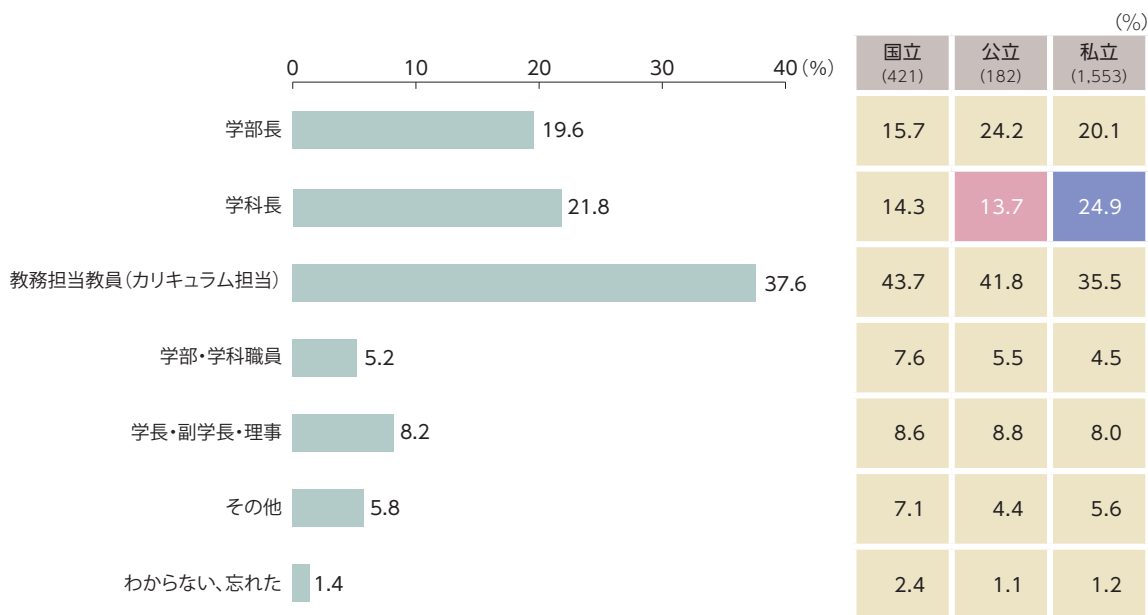
次に、カリキュラム改訂の決定権が、「全学(学長・副学長・理事)」と「学部・学科」のどちらが強いかたずねた結果が図15である。国立は6割が「学部・学科の方が強い」と答えている。また、大学規模(学部数)別に見ると、大学規模が大きくなるほど、「学部・学科の方が強い」の割合が高くなっている。

さらに、カリキュラム改訂のための特別な組織や人員配置の有無についてたずねたところ(図16)、「カリキュラム改訂のための検討委員会」は全体の6割が設置していた。設置者別では、私立の3分の1が「カリキュラム改訂を担う教員」を配置しているが、国立では2割程度となっている。



カリキュラム改訂(新規策定含む)において、主導的な役割を果たされた方は誰ですか。(○は1つ)

図14 カリキュラム改訂で主導的な役割を果たした人(全体・設置者別)

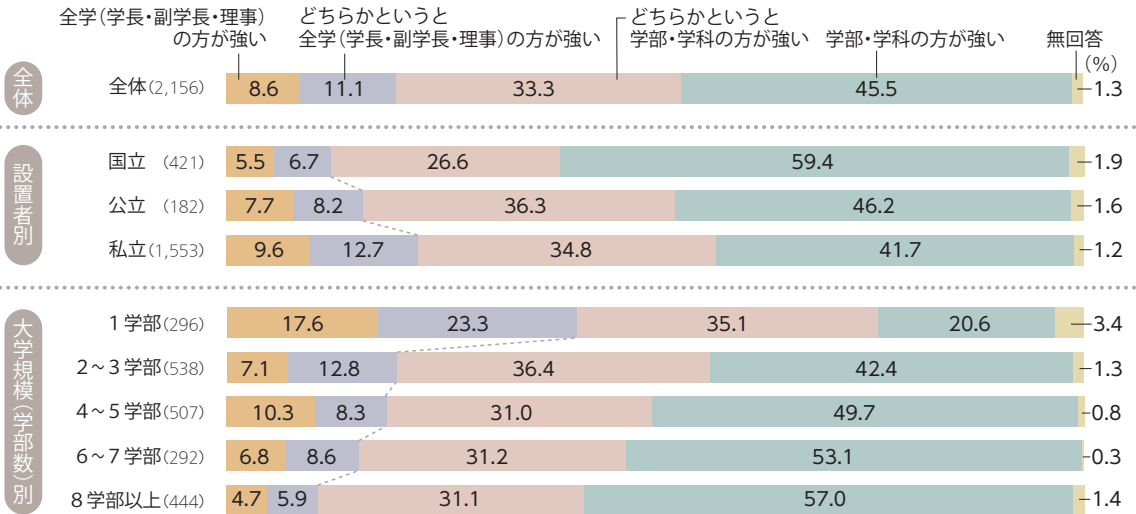


注1) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

注2) 設置者別の表の網掛けは、設置者間で10ポイント以上の差があるもので、最も高いものを■、最も低いものを■で示している。

**Q** カリキュラム改訂(新規策定含む)の決定権は、全学と学部・学科のどちらの方が強いですか。(○は1つ)

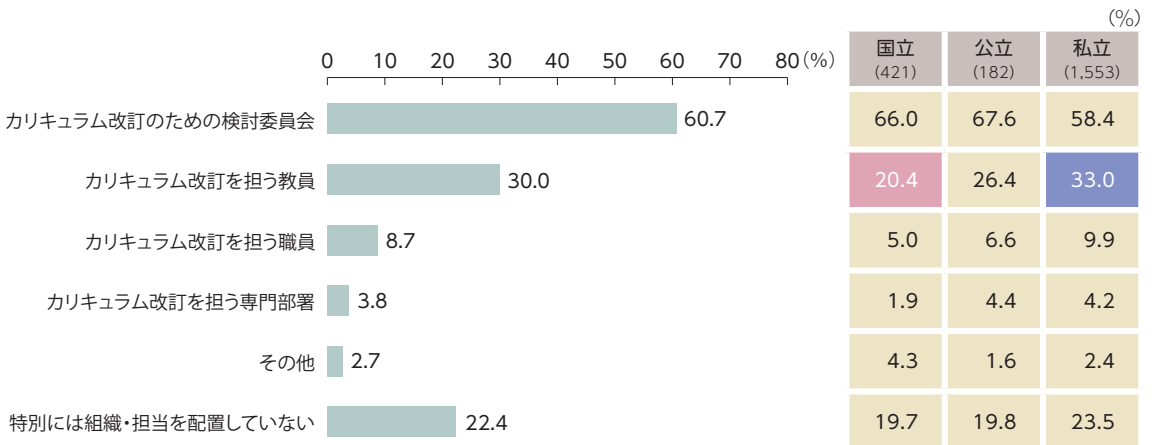
図15 カリキュラム改訂の決定権 (全体・設置者別・大学規模(学部数)別)



注) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

**Q** 通常の教務委員会等とは別に、カリキュラム改訂(新規策定含む)のために、組織や教員・職員を特別に配置しましたか。配置したものを、すべてお答えください。(○はいくつでも)

図16 カリキュラム改訂のための組織 (全体・設置者別)



注1) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

注2) 設置者別の表の網掛けは、設置者間で10ポイント以上の差があるもので、最も高いものを■、最も低いものを■で示している。

## 4 カリキュラム改訂のねらい

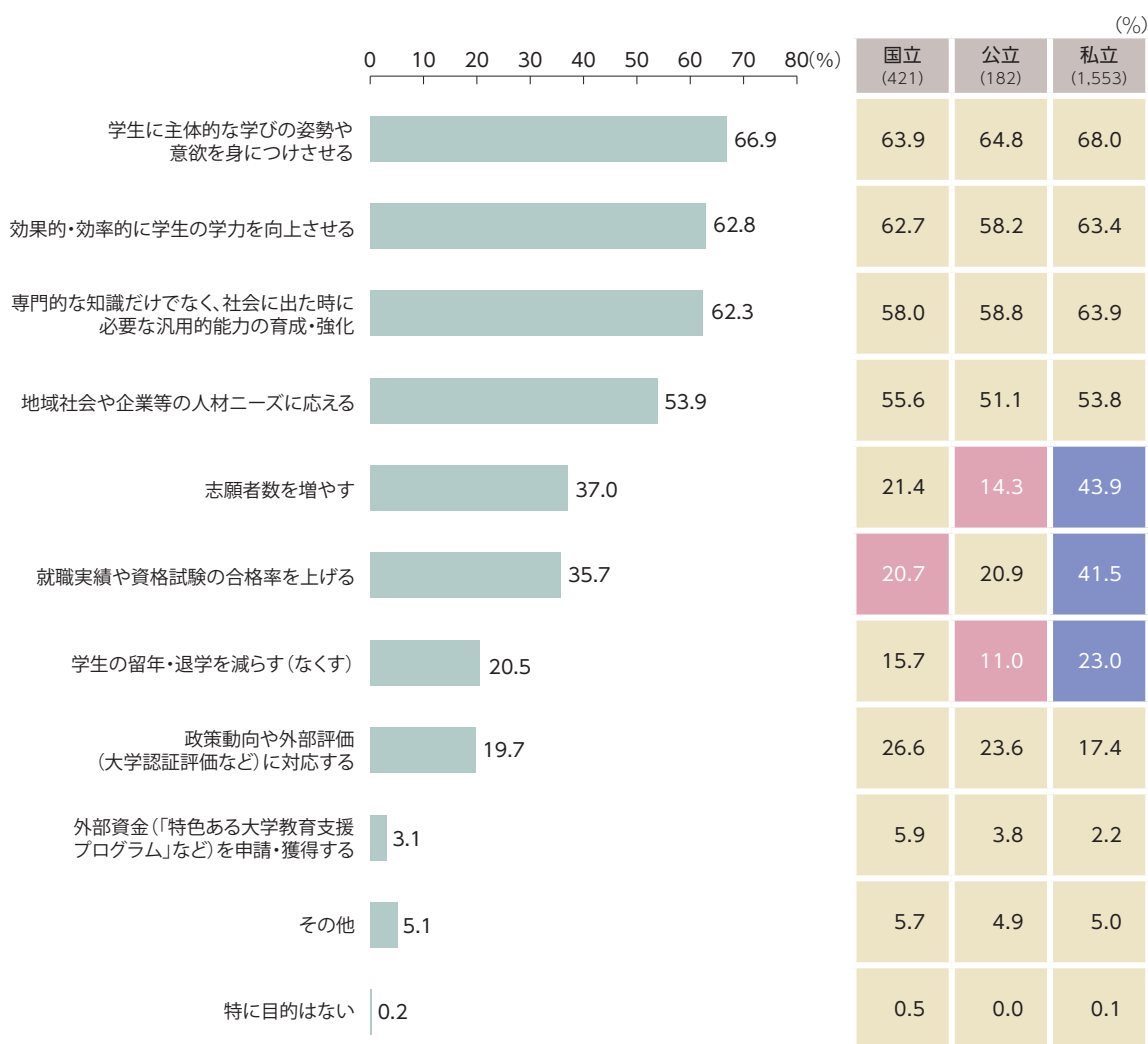
約7割が主体的な学びの姿勢や意欲を身につけさせることをねらいとしている

カリキュラム改訂のねらいとして多いのは、「学生に主体的な学びの姿勢や意欲を身につけさせる」(66.9%)、「効果的・効率的に学生の学力を向上させる」(62.8%)、「専門的な知識だけでなく、社会に出た時に必要な汎用的能力の育成・強化」(62.3%)であった(図17)。設置者別に、違いが大きいのは、「志願者数を増やす」「就職実績や資格試験の合格率を上げる」「学生の留年・退学を減らす(なくす)」の3つの項目で、いずれも私立が国公立に比べて高くなっている。



カリキュラム改訂(新規策定含む)の狙いとして、以下のようなことがあてはまりますか。あてはまるものをすべてお答えください。(○はいくつでも)

図17 カリキュラム改訂のねらい(全体・設置者別)



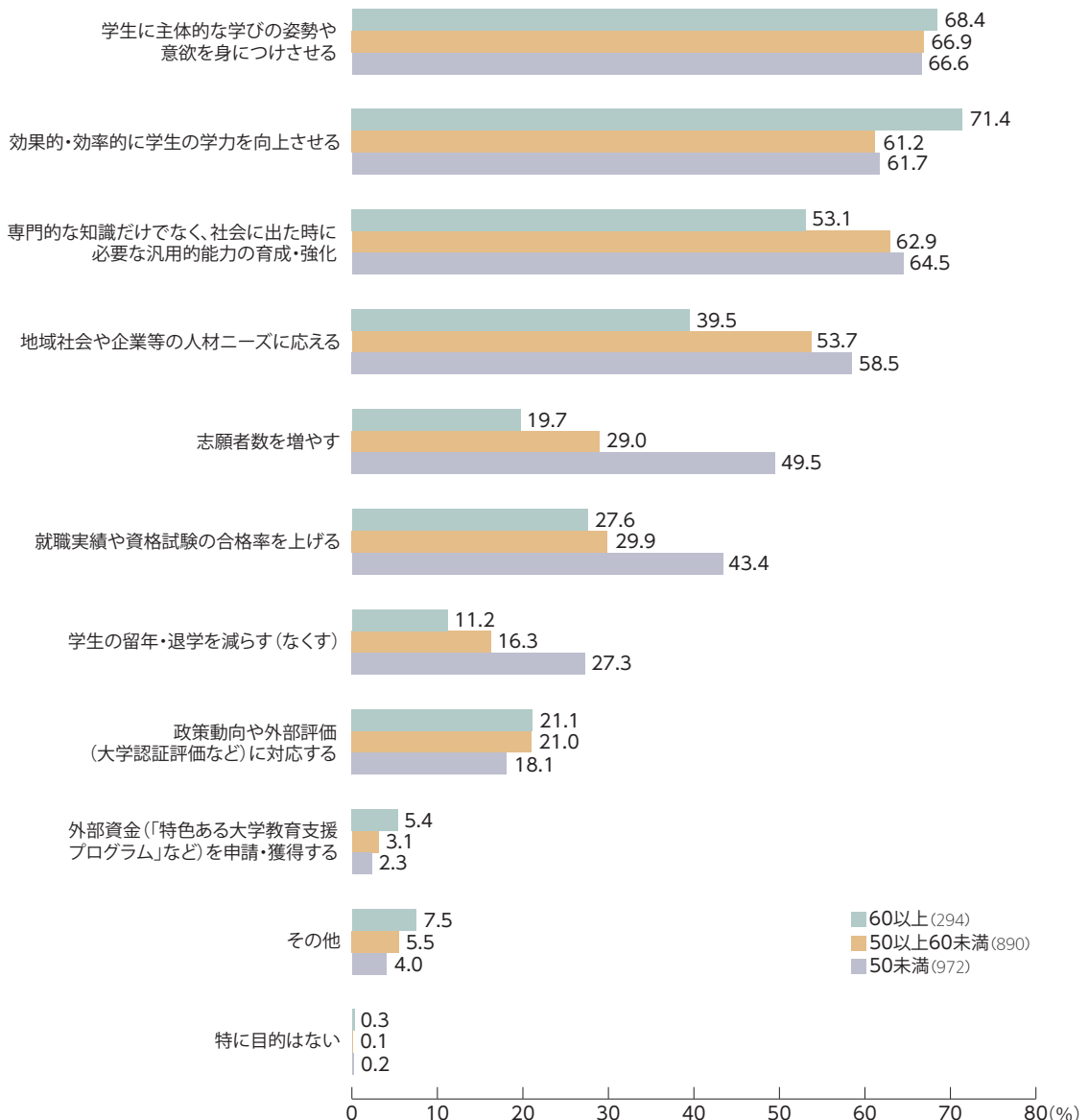
注1) 複数回答。

注2) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

注3) 設置者別の表の網掛けは、設置者間で10ポイント以上の差があるもので、最も高いものを■、最も低いものを■で示している。

これら3つの項目は、図18の大学入試難易度(偏差値)別においても「50未満」で顕著に高い項目である。その他に、大学入試難易度(偏差値)別で大きな違いがみられるのは、「地域社会や企業等の人材ニーズに応える」であり、「50未満」58.5% > 「50以上60未満」53.7% > 「60以上」39.5%となっている。全般に入試難易度の低いところほど、カリキュラム改訂に期待することがらが多いことがわかる。

図18 カリキュラム改訂のねらい(入試難易度(偏差値)別)



注1) 複数回答。

注2) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

## 5 カリキュラム改訂で重視したこと

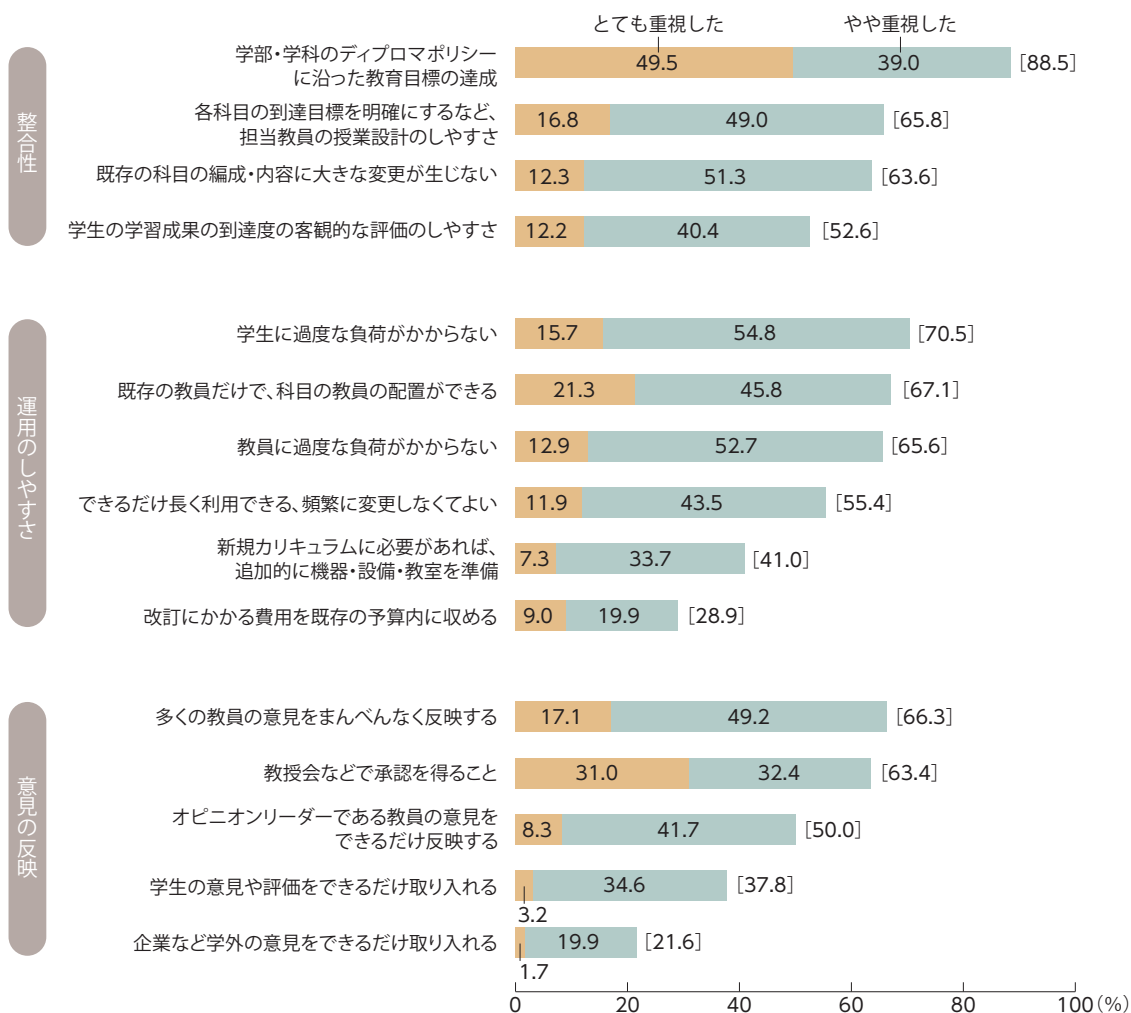
### 5割の学科が、ディプロマポリシーに沿った教育目標の達成を「とても重視」

カリキュラム改訂において、「学部・学科のディプロマポリシーに沿った教育目標の達成」を「とても重視した」が半数の49.5%、「やや重視した」も含めると88.5%が重視している。運用に関わることがらでは、「学生に過度な負荷がかからない」「既存の教員だけで、科目の教員の配置ができる」を重視したとの回答が約7割である（「とても+やや重視した」の割合）。さらに、関係者等の意見の反映に関しては、約3分の1にあたる31.0%が「教授会などで承認を得ること」を「とても重視した」と回答している。それに対して、「学生の意見や評価」「企業など学外の意見」の重視度は低くなっている。

Q

カリキュラム改訂（新規策定含む）の内容やプロセスにおいて、以下のようなことをどの程度重視しましたか。（それぞれ○は1つ）

図19 カリキュラム改訂において重視したこと



注1) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。

注2) 選択肢は「とても重視した」「やや重視した」「あまり重視しなかった」「まったく重視しなかった」の4段階。

注3) [ ]内の値は、「とても重視した」+「やや重視した」の%。

## 6 カリキュラム改訂における阻害要因・課題

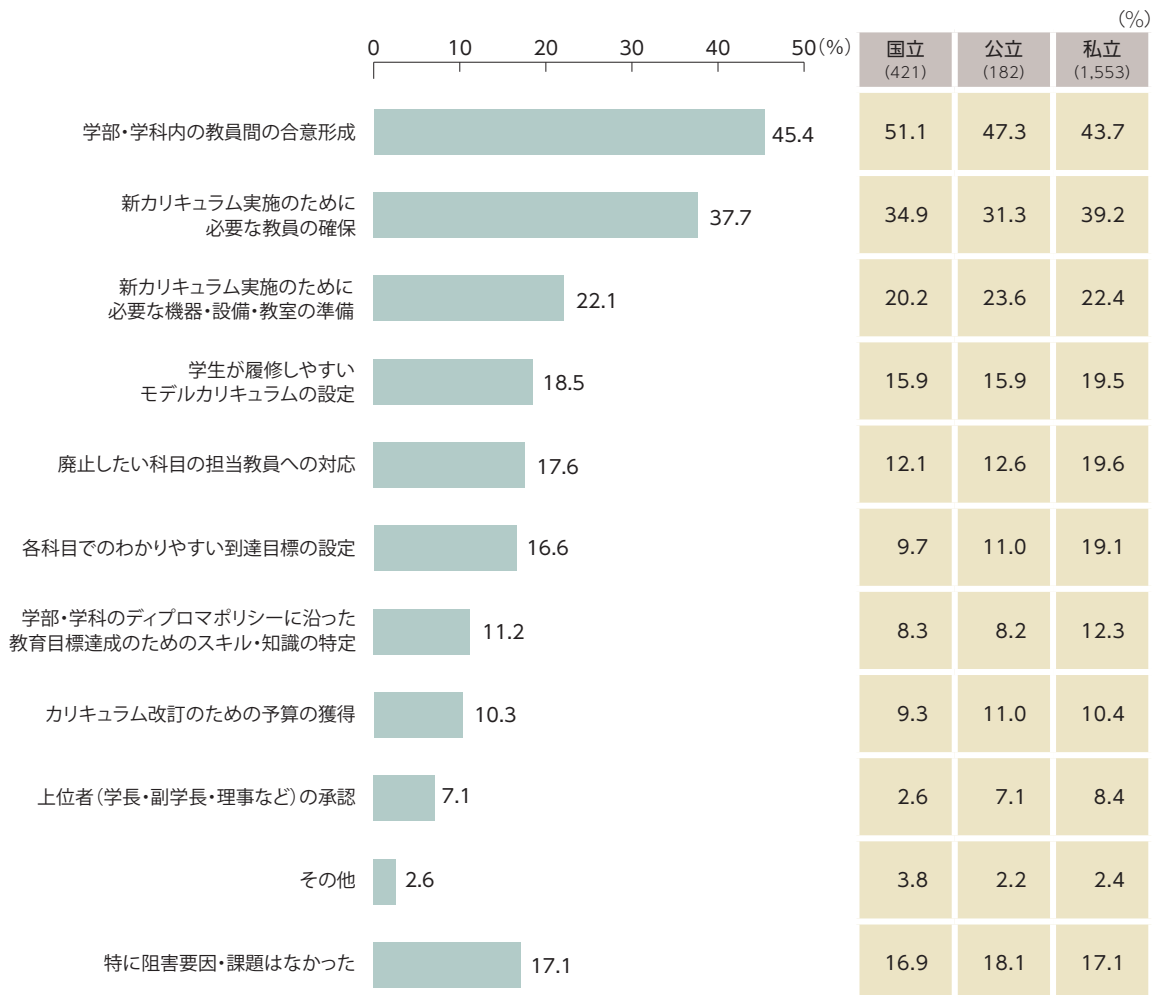
### 約半数が学部・学科内の教員間の合意形成に課題を感じている

カリキュラム改訂における阻害要因・課題をたずねたところ、「学部・学科内の教員間の合意形成」(45.4%)、「新カリキュラム実施のために必要な教員の確保」(37.7%)の順に高くなった。設置者別にみると、「学部・学科内の教員間の合意形成」が国立で51.1%と半数を超え、公立(47.3%)、私立(43.7%)に比べて若干高くなっているが、全体にあまり大きな違いはみられない。



カリキュラム改訂(新規策定含む)において、どのようなことが阻害要因・課題となりましたか。阻害要因・課題となったものを、すべてお答えください。(○はいくつでも)

図20 カリキュラム改訂における阻害要因・課題 (全体・設置者別)



注1) 複数回答。

注2) 対象は、カリキュラム改訂が2000年以降と回答した2,156件。